

## 資料2 教職員の資質・指導力の向上を図る教員研修資料

### 1. 教職員の資質・指導力の向上を図る教員研修資料

#### (1) 心理学的内容を取り入れた研修の必要性

教員研修は、eラーニングやテレビ会議システムなどICTを活用することによって効率的・機能的なものへと改善されていった。その一方で、現場からは教科指導力や児童生徒理解の不足、人間関係について教員研修の必要性が求められていることも事実である。特に、児童生徒や保護者の考え方の変化は大きく、その対応に大きな悩みを抱えている教師は多い。こういった問題に対する解決の方策を探る教員研修の方法として私達は「心理学的内容」を取り入れた。今回は、学級経営や児童生徒理解、生徒指導上の対応、保護者との関係を深めるために「グループエンカウンター」や「カウンセリングの手法」を取り入れた研修について研究した。

例えば、児童生徒が「認められ、励まされること」の喜びを、教師が実感として理解するために、『グニャグニャアメーバを切ろう』という研修資料を開発した。3人1組で、1人が利き手でない方の手でアメーバのような曲線を切る。大人でもなかなかうまくいかず、イライラしてしまう。その中で、別の一人は「そこ、うまく切れたね。いいよ、いいよ。」などと良さを認める声かけをする。一方、もう一人は「よく見て切りなさい。はさみの先をうまく使いなさい。」などと指示的な指導をする。これを3人が立場を変えてやってみると、日頃自分が何気なく行なっている「指示的命的な声かけ」が児童生徒の心理にどのような影響をあたえているのか、また、「受容的で良さを認める声かけ」がどれだけ児童生徒の気持ちを明るく快活にするのかを実感することができる。

また、実際に起きた生徒指導上のトラブルを題材に、役割演技（ロールプレイング）を通して、自分ならどういった対応策をとるかということを考える体験的研修についても研究した。児童生徒がケガをした例を示し、連絡遅れや安易な連絡が解決の方策を狭めていくことや、顔をあわせて話をする方がお互いに安心感が生まれ

るということを実感として感じてもらうような研修として提案した。さらに、複雑な児童生徒の心理を少しでも探れないかと考え、カウンセリングの手法の一つである「WA I法」や「文章完成法」を紹介している。この2つの方法やエゴグラムなどは、教師としての自己の特性や自己理解にも役立つと考えている。

ICTを活用した教員研修が「時代の趨勢に応じて変化していく研修」の部分であるとする、心理学的内容を取り入れた教員研修は、人と人が顔を合わせて、教師と児童生徒との基本的な関係を学ぶ「普遍的な人間関係の研修」と言えるであろう。私達研修管理課は、教員研修に対して「情報化」という最先端の分野を取り入れるだけでなく「人間性を磨くこと」や「教師としての専門性」についても重要視している。今回提示した資料は、教師自身の自己理解を深めたり、児童生徒の心情を感じ取ったり、仮想の問題に対して自分ならどのような対応したりするかを、簡単な演習を通して行なう点に特徴がある。資料があつて、方法さえ分かれば校内研修にも使っていただけるし、保護者会や学級作りに使うことのできる内容も含まれてる。以後に、各研修の解説を付記するので、数名のグループで実際に試していただきたい。

#### (2) 各演習の解説

##### 演習1

この演習は、机に伏せている生徒にどのような声かけをするか、声をかけられた方はどのような気持ちになるかを体験することで、適切な声のかけ方や心情を察して対応することの難しさを体験します。生徒指導の得意な人の声のかけ方を学ぶという効果もあります。

##### 演習2

タイプの違う職員との人間関係に悩む担任から、学年主任として相談を受けた時、どのような対応をとるかを試す演習です。相談者の前向きに解決していきたいという気持ちを受け止められるか、学年主任として中立の立場に立って

問題を処理できるかという点がポイントです。

### 演習 3

この演習は、自分の思いや考えだけで判断する危険性を学ぶ演習です。学校生活になじめないことを「躰のせい」と判断したのですが、実は「障害（ADHD）」であったという内容です。母親の隠された悩みに思いが至らなかったこと、取り返しのつかない一言になってしまうことを実感を持って体験します。

### 演習 4

普段やっている「誉めること」「指示すること」ことが児童生徒にどのように伝わっているかを、情動的に理解するための演習です。『グニャグニャアメーバを切ろう』では、思うようにならない状況下で「励まし」と「叱責」の影響を児童生徒の立場に立って実感する演習です。

『キャッチボール会話』は、何か他のことをしながら会話をする心がほぐれて話しやすくなることを実感してもらう演習です。

『他己紹介』は、第三者が自分のことを理解しようと努力する発言をすることで、相互に安心感が生まれるというグループエンカウンター演習の一つです。新しい学級のスタート時に、学級作りの一つとして利用することもできます。

### 演習 5

カウンセリングなどで使われる、「私は」に続けて文を書く演習である。最初は名前や趣味など差し障りのないことを書いていくが、半ばを過ぎる所になると、今、自分が思っている不満や考えが書かれてきます。その内容から、想像力を巡らして、自己理解や他者理解を行なう演習です。

### 演習 6

WA I 法よりもさらに深く相手や自分を理解するために行なう演習です。例えば、「子どもの頃、私は」と続く文からは、生育歴や親子関係を汲み取れるかも知れません。文章を完成することによって、対象者がこだわっている点や気にしていることが、想像できる心理学的用法の一つです。

### 演習 7

この演習は、自分が抱えている負のイメージを他者の感覚によって再構築する演習です。自分に自信が持てないとか、自分が短所だと思い込んでいることが見方によっては長所にもなるということを経験し、改めて自分自身を前向きに考えるきっかけ作りをします。と同時に、自分を見る目の温かさを感じ、人間関係が深まることをねらいとしています。

### 演習 8

学級懇談会などで、初対面の保護者どうしが、お互いの子どもについて交流できるようにする演習です。保護者は、子どもを通じてお互いに友達の名前は知っていてもどういう性格なのかは知りません。また、自分の子どもを多面的に見るような経験もありません。『うちの子マップ』を描くことによって改めて子どもの性格を見直し、更に交流することによって同世代の子どもの情報を幅広く得ることができます。心配していたことが他の子どもにもあって安心したり、他の子どもとは違う面を発見したりして、視野を広げることになります。

『じつは、うちの子』は、定型的な話し方によって、打ち明け話的に会話を進める手法です。

### 演習 9

この演習は、自分が持っている自分自身のイメージと、他人が持っているイメージとの相違を感じ取るための演習です。このシートに書かれている観点はすべて肯定的なものであるため、他人の評価も肯定的なものになります。児童生徒が思春期に入り、自分が他人の目にどのように映っているかは気になるころですが、こういったシートを使って、自分が気づかないよさを再認識して、自信を持たせるきっかけにしていこうと意図しています。

### 演習 10

エゴグラムという比較的有名な自己診断テストです。それぞれの項目には、以下のような意味合いが含まれています。

CP⇒自分の考えや物の見方が正しいという  
確信のもとに、人のことを教えよう、  
人もそのように考えるべきだという心。  
人を従わせようとする心。

NP⇒親切、思いやり、心の広さ。人をいた  
わり、励まし、親身になって面倒をみ  
る。罰するより、許し、誉める心。

A ⇒事実に基づいて物事を判断しようとし  
る。感情に左右されず、客観的に物事  
を判断する心。

FC⇒自由で自然な姿。好奇心や創造性に満  
ちていて、自然の感情に従う天真爛漫  
で、思いのままに行動する心。

AC⇒自分の本当の感情や欲求を抑えて、親  
や教師などの期待に応えようとする心。

どのポイントが高いのかによって、性格的傾  
向が分かります。また、グラフの形からも性格  
的特性が分かります。